

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭63-218620

⑤ Int. Cl.<sup>4</sup>      識別記号      庁内整理番号      ⑬ 公開 昭和63年(1988)9月12日  
 A 61 K 31/395      A D U      7330-4C  
 // C 07 D 225/06      8413-4C  
                  491/06      7430-4C      審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称      癌化細胞の正常化剤

⑰ 特 願 昭62-53478

⑱ 出 願 昭62(1987)3月9日

⑲ 発 明 者      大 村      智      東京都世田谷区瀬田5-12-7  
 ⑲ 発 明 者      佐 野      浩      東京都町田市玉川学園7-19-16  
 ⑲ 出 願 人      協和発酵工業株式会社      東京都千代田区大手町1丁目6番1号

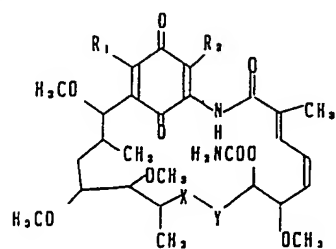
## 明 細 書

## 1. 発明の名称

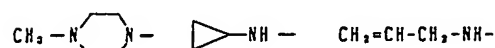
癌化細胞の正常化剤

## 2. 特許請求の範囲

式



(式中、 $R_1$  および  $R_2$  は H または  $\begin{matrix} \text{CH}_3 \\ \diagup \\ \text{N} - \\ \diagdown \\ \text{CH}_3 \end{matrix}$  )



であり、 $X-Y$  は  $\begin{matrix} \text{CH}_2 \\ \diagup \\ \text{CH} \\ \diagdown \\ \text{CH}_2 \end{matrix}$  または  $\begin{matrix} \text{H} \\ \diagup \\ \text{C} \\ \diagdown \\ \text{CH}_3 \end{matrix}$  である)

で表されるハービマイシン誘導体を有効成分として含有する癌化細胞の正常化剤

## 3. 発明の詳細な説明

## 産業上の利用分野

本発明はハービマイシン誘導体を有効成分として含有する癌化細胞の正常化剤に関する。

## 従 来 技 術

ハービマイシンはアンサマイシン系抗生物質に分類される抗生物質で除草活性、抗タバコモザイクウイルス活性およびP388ロイケミア、B16メラノーマ、L1210ロイケミア、ルイス・ラング・カルシノーマ、エーリッヒ・アサイトス・カルシノーマ等を用いたマウス実験動物系において抗腫瘍活性を示すことが知られている。ある種のハービマイシンの誘導体がエーリッヒ・アサイトス・カルシノーマを用いたマウス実験動物系において抗腫瘍活性を有することが知られている。

(J. Antibiotics, 37, 1264(1984); 39, 415(1986))

それらの誘導体の中には治療効果が母化合物であるハービマイシンAと比較して優れているものも見出せるが、その効果を顕わすのに必要な投与量はハービマイシンAの20~100倍となってい



る。ベンゼン中27℃で48時間反応させることが好ましい。

#### 急性毒性試験

6週齢、雄のDDYマウス(25±1g, 1群3匹)に、2%のアラビアゴムを含む生理食塩水に懸濁した薬剤をipで投与し、24時間後の生存率から50%生存投与量(LD<sub>50</sub>)を上げ下げ法で算出した結果、化合物(1)はLD<sub>50</sub> : >2000mg/kgであった。

化合物(1)は生理食塩水、ブドウ糖、ラクトース、マンニット注射液に適当な界面活性剤例えばTween 80を助剤として加え化合物(1)を懸濁させ、これを1~1000mg/kg、1日1~3回で静脈内あるいは局所に投与される。

#### 実施例

化合物(1)のsrc<sup>+</sup>NRK細胞に対する作用をハービマイシンAと比較して表に示す。

化 合 物	IC <sub>50</sub> (μg/ml)	形態変化の有無
1	0.17	+
2	3.1	+
3	10	+
ハービマイシン A	0.45	+

#### (方法)

細胞 : Rous sarcoma virus Prague strain, ts25

で感染したラットの腎細胞 (src<sup>+</sup>NRK細胞)

培地 : 5% heat-inactivated calf serum (GIBCO Laboratories, Grand Island, N.Y. 製) を含む Dulbecco modified Eagle medium (GIBCO Laboratories 製) を含む Dulbecco modified Eagle medium (GIBCO Laboratories 製)

培養条件 : 直径35mmのシャーレ中に2mlの培地を取り3×10<sup>4</sup>個の細胞を接種した。次いで薬剤を加え5%の炭酸ガスを含む加湿空気中で、33℃で1日間培養

した後、細胞数および細胞形態を顕微鏡で観察した。

#### 参考例1.

##### 19-アリルアミノハービマイシンAの製造

ハービマイシンA (3.0g) とアリルアミン (5.0ml) をベンゼン (100ml) に溶解し、室温に24時間放置する。反応液を減圧濃縮すると紫色の粉末物質が得られる。粉末物質をベンゼン : 酢酸エチル = 1 : 1 を展開溶媒とするシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて精製すると標題化合物が赤紫色粉末として得られる。1.06g (32.3%)

TLC Rf値 : 0.45 (ベンゼン : 酢酸エチル = 1 : 1)

旋光度 :  $[\alpha]_D^{25} -124.0^\circ$  (C 1.0, CHCl<sub>3</sub>)

紫外線吸収スペクトル :  $\lambda_{max}^{nm(\epsilon)}$  247 (13,100), 335(900)

マスペクトル : m/z 629 (M<sup>+</sup>, C<sub>23</sub>H<sub>17</sub>N<sub>3</sub>O<sub>2</sub>)

核磁気共鳴スペクトル (CDCl<sub>3</sub>, 中) :

$\delta$  (ppm) 4.46 (brs, H-15), 6.48 (d, J=1.8Hz, H-17), 7.45 (m, NH)

#### 参考例2.

##### 17-シクロプロピルアミノハービマイシンAの製造

ハービマイシンA (3.0g) とシクロプロピルアミン (5.0ml) をベンゼン (100ml) に溶解し、室温に48時間放置する。反応液を減圧濃縮すると、赤紫色の粉末物質が得られる。粉末物質をベンゼン : 酢酸エチル = 1 : 1 を展開溶媒とするシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて精製すると、標題化合物が赤紫色粉末として得られる。1.63g (49.6%)

TLC Rf値 : 0.60 (ベンゼン : 酢酸エチル = 1 : 1)

旋光度 :  $[\alpha]_D^{25} -138.0^\circ$  (C 0.2, CHCl<sub>3</sub>)

紫外線吸収スペクトル :  $\lambda_{max}^{nm(\epsilon)}$  245 (12,000)

マスペクトル : m/z 629 (M<sup>+</sup>, C<sub>23</sub>H<sub>17</sub>N<sub>3</sub>O<sub>2</sub>)

核磁気共鳴スペクトル (CDCl<sub>3</sub>, 中) :

$\delta$  (ppm) 4.48 (brs, H-15), 6.95 (s, H-19),

7.59 (brd, NH)

## 参考例3.

8,9-エポキシ-19-シクロプロピルアミノハービマイシンAの製造

ハービマイシンA(7.0g)とm-クロロ過安息香酸(2.1g)をクロロホルム(300ml)に溶解し、室温で24時間放置する。反応液を氷冷しながら飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和し、クロロホルム層を抽出する。抽出液を飽和食塩水で洗浄後、無水硫酸ナトリウムで脱水し、減圧濃縮すると、黄色粉末が得られる。粉末物質をベンゼン：酢酸エチル=1：1を展開溶媒とするシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて精製すると、8,9-エポキシハービマイシンAが淡黄色粉末として得られる。4.70g(65.3%)

TLC Rf値：0.54(ベンゼン：酢酸エチル=1：1)

8,9-エポキシハービマイシンA(1.0g)とシクロプロピルアミン(6.0ml)をベンゼン

(100ml)に溶解し、室温に70時間放置する。

反応液を減圧濃縮すると、赤紫色の粉末物質が得られる。粉末物質をベンゼン：酢酸エチル=1：

1を展開溶媒とするシリカゲルカラムクロマトグラフィーを用いて精製すると標題化合物が赤紫色粉末として得られる。0.51g(45.4%)

TLC Rf値：0.15(ベンゼン：酢酸エチル=1：1)

旋光度： $[\alpha]_D^{25}$  -135.0°(C 0.3, CHCl<sub>3</sub>)

紫外線吸収スペクトル： $\lambda_{max}^{NaOH}$  nm( $\epsilon$ )265(21,500)

マススペクトル： $m/z$  645( $M^+$ , C<sub>23</sub>H<sub>17</sub>N<sub>3</sub>O<sub>10</sub>)

核磁気共鳴スペクトル(CDCI<sub>3</sub>中)：

$\delta$ (ppm) 4.57(brs, H-15), 6.50(d, J=1.8

Hz, H-17), 6.68(brd, NH)

特許出願人(102) 協和醗酵工業株式会社

代表者 加藤 幹夫

